

厚生労働科学研究費補助金がん対策推進総合研究事業
分担研究報告書

分担研究課題：小児がん拠点病院による小児がん医療提供体制の検討

研究分担者

田口 智章 九州大学大学院医学研究院小児外科学分野 教授

研究要旨：

平成 24 年 2 月に小児がん拠点病院（以下「拠点病院」とする）が全国に 15 施設指定されたが、小児がん医療の実態と理想の間には、依然として乖離がある。今回、拠点病院が指定されたことは、理想実現の第一歩であり、今後は拠点病院の医療の質を向上させることで、より理想的な小児がん診療を行うことの出来る体制を構築する必要がある。

本研究では、拠点病院及び小児がん診療病院における診療連携方法の確立を研究し、チーム医療を推進することで、真に機能する連携のあり方を検討する。拠点病院の医療の質のばらつき、地元に戻った患者への医療の継続的提供体制の欠如、拠点病院の質の評価指標の未確立などの項目につき、解決する方策を提言する。診療連携の様々な側面で、拠点病院内外での連携について調査研究を行い、問題点を整理することで、真に機能する診療連携を目指す。

【A．研究目的】

拠点病院および小児がん診療病院における診療連携方法を確立し、チーム医療を推進することで真に機能する連携の在り方を検討する。特に小児がん拠点病院としての九州大学病院における医療提供体制について、また九州・沖縄ブロックにおける医療の質のばらつき、地元に戻った患者への医療の継続的提供体制の問題点などにつき解決する方策を提言することを目的とする。

【B．研究方法】

小児がん拠点病院としての九州大学病院における医療提供体制の整備、九州・沖縄地域の唯一の小児がん拠点病院としての地域連携における医療連携体制の整備についてそれぞれの視点から計画を立案した。

1 小児がん拠点病院計画

(1) チームによる集学的治療及び標準的治療の実施体制の整備

医師（小児科，小児外科，放射線科，整形外科，脳神経外科，眼科，耳鼻咽喉科，産婦人科，泌尿器科，精神科神経科，心療内科，麻酔科及び小児歯科・スペシャルニーズ歯科等）・看護師・薬剤師・放射線技師等のスタッフによるチーム医療体制の強化を行う。

(2) 専門的な知識及び技能を有する医療従事者及び療養を支援する者の配置

上記のチーム医療体制を支持する保育士、臨床心理士、チャイルドライフスペシャリストなど小児がん患者の心理的サポートなどを行うスタッフの配置を行う。

(3) 相談窓口の充実

再発がん及び難治がんの患者に対

して家族の不安や疑問に適切に対応すると共に、療養上の相談やセカンドオピニオンなどの対応を充実させる。

(4) 思春期のがん患者への診療体制

小児医療センターにおいては、思春期から若年成人のいわゆる AYA 世代のがん患者の診療も行っている。高校生以上の患者に対する院内学級などを含む教育体制の整備や患者同士のコミュニケーションを行うための専用のスペースの確保、成人に達した後の成人診療科と連携したフォローアップシステムの構築などを行う。

(5) 緩和ケアチームによる緩和ケアの実施体制

医師・看護師・臨床心理士・保育士・チャイルドライフスペシャリスト・院内学級教師など多職種による小児緩和ケアチームを構成し、定期的なカンファレンスや回診を行い、患児の疼痛のマネジメントや処置による苦痛の緩和を行う。

2 九州・沖縄地域小児がん地域計画

(1) 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制の構築

九州・沖縄ブロックの小児がん診療病院として各県（福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県）にある大学病院や総合病院から構成される「九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会」を立ち上げる。各県の連携大学病院及び連携総合病院の下には複数の小児連携病院に支持される組織体制があり、九州・沖縄地域の全ての小児がん患者をくまなくフォローアップできるような体制を構築する。

(2) 疾患別、治療内容に応じた地域連

携

白血病、悪性リンパ腫などの血液系悪性腫瘍に関しては、再発・難治性の高い疾患については、九州大学病院にて受け入れ治療を施行し、治療後は各県の小児がん診療病院及び小児連携病院でフォローアップする。神経芽腫、ウィルムス腫瘍などの固形悪性腫瘍に関しては症例の少ない施設においては各県の小児がん診療病院への症例の集約化を図り、再発・難治例については、できるだけ九州大学病院にて治療を行うように努める。また放射線治療についてはリニアック、サイバーナイフなど高精度放射線治療設備を完備した、九州大学病院に加えて各県の小児がん診療病院にて治療を施行する。

(3) 地域連携を進めるための取組

九州・沖縄地域小児がん拠点病院連絡会議の定期的な開催

年 2 回、九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会を構成する施設による会議を行い、小児がん拠点病院としての事業の進捗や展望についての討議を行う。

テレビ会議による協議会の開催

年 2 回の定期的な小児がん拠点病院連絡会議に加えて、テレビ会議として毎月 1 回開催する。

(4) 小児がん登録事業に関して

現在、小児がん登録は院内がん登録、学会基盤の小児がん登録など複数の小児がん登録事業があるため、非常に複雑化している。九州・沖縄地域の登録に関して小児がん診療病院の事務担当部署に統一し、九州大学病院小児がん拠点病院事務局が取りまとめを行い、今後の登録一元化に関しての方向付けを行う。

(5) 行政との連携

福岡県内においては、福岡県がん対策推進協議会を通じて、本院を中

心とした地域の医療機関との連携協力体制の構築を行う。また、九州・沖縄地域内における福岡県外の行政機関へは、各県の連携大学病院等を通じ、連携を深める。

【C. 研究結果】

1 小児がん拠点病院計画、2九州・沖縄地域小児がん地域計画、それぞれについて平成 27 年度の進捗状況を報告する。

1 小児がん拠点病院計画

(1) 長期フォローアップにおけるトランジショナルケア外来開設

これまで小児科及び小児外科による小児がん長期フォローアップシステムがあり、治療終了後の患者に対して定期的にフォローアップを継続しているが、平成 26 年度に大学病院の診療部門としては、わが国初の開設となるトランジショナルケア外来を開設した。トランジショナルケア外来では、成人期に達した小児慢性疾患の患者さんが成人診療科へ円滑に移行するためのサポートを実施する。これにより、今まで行われていた長期フォローアップに関して、より明確に患者さんに認識していただける状況が整備された。

(2) 小児緩和ケアチームの体制整備

平成 27 年 4 月より小児緩和ケアチームの運用を開始している。チームは多診療科による医師、看護師、薬剤師、理学療法士、臨床心理士・社会福祉士、管理栄養士、保育士、院内学級教諭、チャイルド・ライフ・スペシャリストなど多職種により構成されている。週に 1 回ラウンドを行い、患児の疼痛マネジメントや処置による苦痛の緩和を行っている。

る。患者死亡時には多職種による「ふりかえり」を行うなど、医療者自身のストレスマネジメントにも積極的に取り組んでいる。

また偶数月にはカンファレンス（症例検討会）、奇数月には勉強会（院内外より講師を招聘）を開催し、緩和ケアチーム内外に向けた教育活動も行っている。

2九州・沖縄地域小児がん地域計画

(1) 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制の構築（図 1）

平成 25 年 6 月に発足した体制の整備を継続している。

(2) 九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会の開催

平成 27 年度は 2 回の会議を開催した。

第 6 回九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会（平成 27 年 9 月 28 日）

第 7 回九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会（平成 28 年 2 月 27 日）

(3) 九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院テレビ会議（表 1）

テレビ会議のシステムを、九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会を構成するすべての施設と福岡県内の小児がん診療病院 2 施設、合計 21 施設に整備し、毎月 1 回テレビ会議を開催している。会議では、症例検討や研修カンファレンス、毎回小児がんに関するテーマを一つ決めて討論会を行ったり、小児がん拠点病院の活動報告、小児がんに関する中央機関や厚労科研研究班報告、治験の報告などの情報共有を行った。

図 1

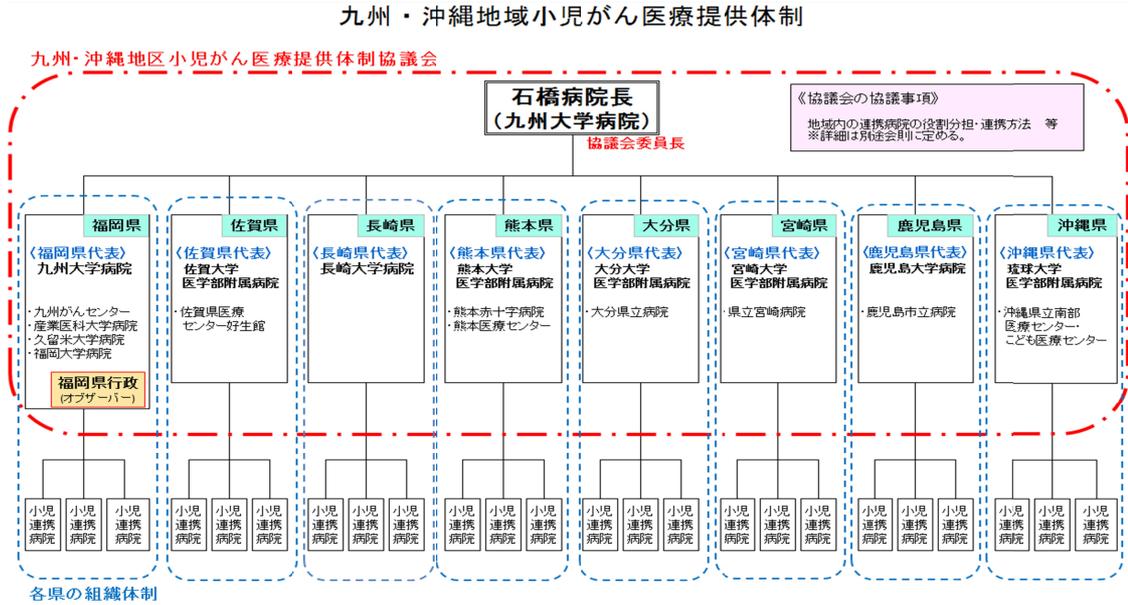


表 1

日 程	会議名	討論会テーマ	当番施設
平成 27 年 4 月 27 日(月)	第 10 回会議 (症例検討会)	ボランティア、家族会の現状について	佐賀県医療センター 好生館
平成 27 年 5 月 25 日(月)	第 11 回会議 (症例検討会)	各施設の多職種連携について	熊本赤十字病院
平成 27 年 6 月 22 日(月)	第 12 回会議 (症例検討会)	各施設の医療連携について	県立宮崎病院
平成 27 年 7 月 27 日(月)	第 13 回会議 (症例検討会)	精子・卵子保存について	九州がんセンター
平成 27 年 8 月 24 日(月)	第 14 回会議 (症例検討会)	小児がん患者の長期フォローの取り組みについて	大分県立病院
平成 27 年 9 月 28 日(月)	第 6 回九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会		
平成 27 年 10 月 26 日(月)	第 15 回会議 (症例検討会)	小児血液・がんの緩和ケア、終末期ケアについて	熊本医療センター
平成 27 年 11 月 16 日(月)	第 16 回会議 (研修カンファレンス)	小児がんと放射線治療について	久留米大学
平成 27 年 12 月 21 日(月)	第 17 回会議 (研修カンファレンス)	小児がん患児の口腔内ケアについて	鹿児島市立病院
平成 28 年 1 月 18 日(月)	第 18 回会議 (症例検討会)	小児がん患者における中心静脈カテーテル管理について	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター
平成 28 年 2 月 22 日(月)	第 19 回会議 (症例検討会)	各施設での取り決めごとについて	福岡大学
平成 28 年 3 月 28 日(月)	第 20 回会議 (症例検討会)	(未定)	佐賀大学

(4) 行政との連携

福岡県がん対策推進協議会の構成員として、全国に先駆けて「福岡県がん対策アクションプラン」に小児がん対策の充実のための取り組みを定めた。

中島健太郎、川久保尚徳、三好きな、孝橋賢一、小田義直、高田英俊、田口智章、AYA世代の固形悪性腫瘍における小児外科医の役割、第57回日本小児血液・がん学会学術集会、平成27年11月27日～29日、山梨

【D. 考察】

小児がん拠点病院としての機能を充実するために九州・沖縄ブロックにおける小児がん拠点病院および小児がん診療病院における連携を確立するため、平成27年度は長期フォローアップや小児緩和ケアチームの体制整備などを行った。また九州・沖縄地域小児がん地域計画に対しては九州・沖縄地域小児がん医療提供体制の構築、九州・沖縄地域小児がん医療提供体制協議会の定期開催、九州・沖縄ブロック小児がん拠点病院テレビ会議の定期開催、行政との連携（福岡県）などを行った。

今後、がん相談員研修を修了した相談員（チャイルド・ライフ・スペシャリスト）による相談支援窓口の充実、相談員による九州沖縄地域内での研修会の開催、地域内での長期フォローアップシステムの連携模索、セカンドオピニオンに対する体制の充実、思春期のがん患者への診療体制の整備、登録システムの整備などは継続的な課題としてとりくみ、九州大学病院が小児がん拠点病院として目指すべき小児がん提供体制についての提言を追及する。

【E. 健康危険情報】

（総括研究報告書にまとめて記入）

【G. 研究発表】

(1) 木下義晶、宗崎良太、古賀友紀、

【H. 指摘財産権の出願・登録状況 （予定を含む）】

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし